

## 『日本語教育能力検定試験 実戦予想問題' 13』 晶文社

### 添削課題 1

#### 【解答例】

「休ませせて」は、規範とは言えないので、扱いに注意しなければならないと考える。これは、五段動詞の使役形である「休ませる」に、一段動詞や不規則動詞の使役形「～させる」と同様に不要な「さ」を挿入したことによる誤用である。「～させていただく」は、一般に自分が行うことを、相手の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受けるという場合に使われる。しかし、最近は、「司会をさせていただく」「ご遠慮させていただく」のように、こちらが許可をした訳でもない場合にも使用されている。また、「～させていただく」というのは相手のことは考えずに自分の都合でそうするという含みを持つ。そのため、「休ませさせていただきます」を上司に言った場合には、自分の都合を一方的に言うだけでお願いしていることにはならない。このようなことから「休ませさせていただきます」は、学習者には使用のリスクを考慮して、使わないように指導したい。(398字)

#### 【講評と解答のポイント】

記述問題は決まった書き方はないが、ご自分の指導方針を明確に示すように記述したい。

注意したいのは、この学習者の誤用ではないので、使役表現の規範である「休ませせて」に関する授業を展開するのは的外れである。学習者は違いに気がついている。ここでは、教室で習う形と現実社会での言語使用（変種）の違いがあることを指摘したい。

解答に際して、得点にかかわるポイントは次の通りである。

- ① 「休ませせる」の語形の特徴を、この語形に絞って簡潔に指摘する。この現象は、いわゆる「さ入れことば」とも言われる。
- ② 方針の是非は問われないが、この学習者の「使っても大丈夫か」という問いに答える形で、使用の是非を明確に書くことが最も大事なポイントになる。
- ③ もしこの言い方を学習者が使った場合の不利益や不都合な点があれば、学習者の立場に立って言及したい。

## 添削課題2

### 【解答例】

媒介語の使用については、賛否両論あるが、この研修クラスの場合は、全員が同じ国の出身者で媒介語が使えるクラス環境にあることや短期集中であることと、さらに、講師の中に研修生の母語が堪能な者がいることから、学習者の母語を媒介語として使用する方針にしたい。一つの教室に母語が異なる学習者がいる通常のクラスでは、媒介語の使用が困難である。日本語だけで日本語を教える方法は、直接法といわれるが、日本語能力の乏しい研修クラスでは、まず母語で、仕事の内容や日本での生活習慣を説明する必要がある。また、研修中の母語での質問や対訳を付けた教材などは、研修生のストレスの軽減にも役立つ。ただ、媒介語に頼りすぎると、日本語の習得を遅らせてしまう危険性もあるので、充分、注意して使いたい。従って、授業では、主に文法や表現、語彙の説明などで、効果的に媒介語を使用していくようにしたい。このケースでは媒介語の使用が、今後の研修生活のために極めて有効だと考える。(416字)

### 【講評と解答のポイント】

日本語だけではなく、媒介語も取り入れた折衷的な授業プランが多かった。ただ、論述的な調子で少し客観的に書いている答案や、媒介語を取り入れた授業プラン一辺倒の答案が目立った。ここでは設問に忠実に、まず、方針とその理由をわかりやすく挙げたい。そして、希望した研修生のメンタル・ケアなど、媒介語は彼らにとってどのようなメリットがあるだろうか、という面にも配慮して記述していきたい。

#### ①容認する立場

例) 条件が整っているので媒介語を入れても良いが、柔軟に対応するべきである。

#### ②排除する立場

例) 日本の国内で教える場合は、日本語だけで教える直接法が効果的である。

高得点のコツとしては、

- ・自分の方針を明確にすること
- ・その理由を簡潔に挙げる
- ・希望した研修生の心理面等に考慮すること

本試験では、この3点を忘れずに記述していきたい。

受験者の皆様のご健闘をお祈りします。

言語デザイン研究所

代表 泉 均